

* 百日咳の感染が拡大しています *

長引く咳が特徴で全国的に感染が増加していますが、茨城県でも増加しています。過去に予防接種を受けていても有効性が徐々に減衰することがあり、成人でも免疫がないと高率に罹患します。

1. 百日咳について

病原体	百日咳菌
潜伏期間	7－10日
感染経路	飛沫感染、接触感染
感染期間	咳が出現してから4週目頃まで 適切な抗菌薬治療開始後5日程度で感染力は著しく弱くなる
症状	①カタル期（発症後1～2週間）感染力最強の時期で、感冒様症状で発症し、水様性鼻汁、乾性咳嗽が次第に強くなる ②痙咳期（2～4週間）発作性の咳が頻発し、吸気時に笛音(whoop)を発し、咳嗽発作後に嘔吐を伴う、3か月未満児では無呼吸を来して重篤となる。成人では非典型的で、笛音を欠く乾性の咳が2週間以上続き、夜間に増悪する傾向が強い ③回復期（1～3か月）咳が徐々に改善するが、ウイルス感染などにより再燃しやすい

2. 受診・治療について

- ①百日咳に対する治療は、抗菌薬の服用や対症療法となります。
- ②咳が1週間以上続いたら、早めに受診するようにしてください。
- ③百日咳と診断された場合は、医師の指示に従い、自宅で安静にしてください。

3. 大学への登校や学外活動について

学校保健安全法では百日咳は第二種感染症に指定されており、「特有の咳が消失するまで、または5日間の適正な抗菌性物質製剤による治療が終了するまで」出席停止となっています。

出席停止の基準や手続きの詳細は、茨城大学HPをご覧ください。

<https://www.ibaraki.ac.jp/m/lifesupport/class/index.html>

- ・学校保健安全法施行規則第18条の感染症による出席停止について
- ・やむを得ない事情による授業又は期末試験の欠席について
- ・登校許可証明書（治癒証明書）について

4. 予防方法について

手洗い、マスク着用、咳エチケットを心掛けてください。

厚生労働省：百日咳

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou/kekakukansenshou19/whooping_cough.html